

# 京都府農林水産技術センター 中長期研究計画 概要

(計画期間：令和8年度～令和17年度)

## I 計画策定の趣旨

気候変動や担い手不足、消費者ニーズの多様化など、農林水産業が直面する課題に対応し、府内農林水産業の持続的発展と地域経済の活性化に貢献することを目的とする。「京都府農林水産ビジョン」および「京都フードテック基本構想」の実現を目指し、**今後10年を見据えた重点的研究テーマと研究推進体制強化の方向性を示すもの**

## II 京都府農林水産業を取り巻く状況と主な課題

### 1 生産の現状

収益性の高い農業の実現に向け、ブランド京野菜の生産振興等が進められてきたが、中山間地に生産拠点多く、担い手の減少が進む中、**高付加価値農畜産物の生産力維持・強化**が重要な課題

### 2 気候変動等の影響

高温や豪雨、干ばつ、海水温上昇など極端な気象による深刻な影響。農作物品質低下や畜産水産被害に対する**適応技術の確立**が急務

### 3 担い手不足と高齢化

従事者の減少と高齢化に対し、**京都の小規模・多品目生産に適合した低コストなスマート技術**による省力化を行い、収益性の向上に繋げる

### 4 環境負荷低減と鳥獣害

みどり戦略に応じた**環境調和型・持続可能型農業**への転換が求められる。野生鳥獣害による農作物・林業への被害が深刻化

### 5 消費者ニーズと社会情勢

健康志向や利便性等の**多様なニーズを的確に捉え**、府内産農林水産加工品の活用等、和食文化・地域資源を生かした食のブランド化、輸出拡大が求められる

## III 10年先を見据えた「実現したい姿」

- 1 現在とは大きく変化した生産環境の下でも、**持続的で安定な農林水産物の生産**を継続している
- 2 スマート技術を取り入れた栽培技術の普及により現在よりも**生産性・収益性が向上**している
- 3 京都府農林水産物の食品としての魅力が高まり、**新しい需要が生産を後押しする好循環**が生まれ出されている

## IV 試験研究を推進するための方策

### 1 試験研究テーマの的確な企画・立案

**現場のニーズを捉え、テーマを重点化**。産学公連携、普及・社会実装を見据えた試験計画立案

### 2 効果的・効率的な試験研究の実施

**産学公連携**による共同研究の推進や分野横断的なアプローチにより効率的に試験実施

### 3 研究成果の効果的かつ迅速な普及・社会実装

行政・普及との連携により、**開発した技術や品種をいち早く現場に定着**、研究成果の情報発信

### 4 研究力強化に向けた人材育成

増加する**若手職員のスキル向上**により組織の技術力を底上げ、高度化する現場ニーズに対応

### 5 知的財産の活用と管理体制

京都オリジナル品種の模倣防止や、**知的財産を積極的・有効的に活用**、組織的管理体制を強化

## V 研究体制の構築と拠点再編

- ・綾部市にフィールド・スマート研究拠点、宇治市に**食品加工研究拠点**を整備
- ・気候変動対応、スマート技術、食品加工を軸とした**分野横断型プロジェクトチーム**を設置
- ・農業大学校と連携し、**次世代担い手の育成と教育機能を強化**